

GRAFT COPOLYMER AND COATING MATERIAL

Patent Number: JP2000119355

Publication date: 2000-04-25

Inventor(s): MATAGAWA SHUICHI; ABE TOSHIHIKO

Applicant(s):: FUJI KASEI KOGYO KK

Requested Patent: ■ JP2000119355 (JP00119355)

Application Number: JP19980298397 19981020

Priority Number(s):

IPC Classification: C08F290/12 ; C08F290/06 ; C09D155/00 ; C09D171/00 ; C09D183/07

EC Classification:

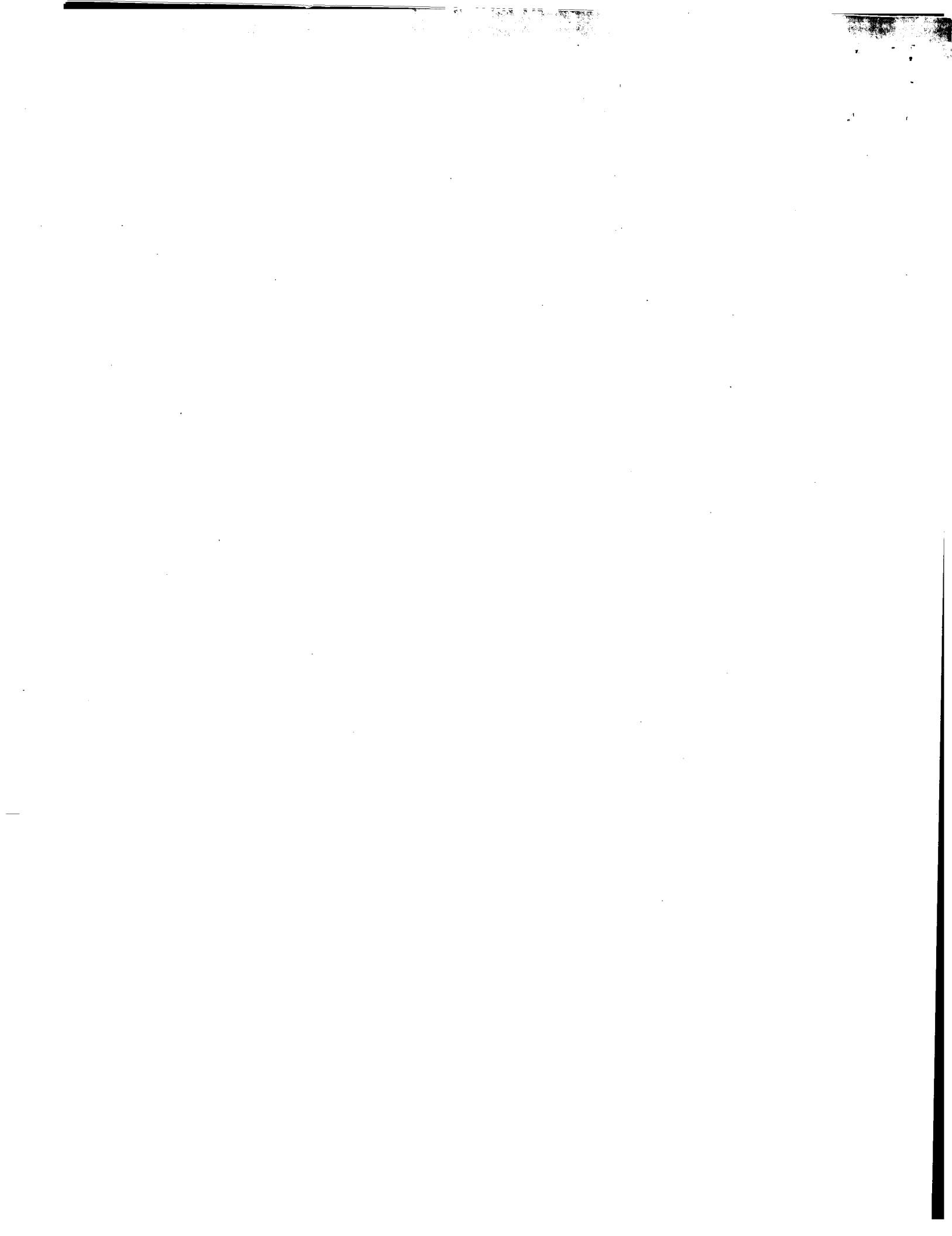
Equivalents:

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a graft copolymer capable of giving a coating film excellent in weatherability, luster, water droplet slipping properties, water repellency and antifouling properties, especially initial antifouling properties by randomly copolymerizing a specific fluororesin with a polysiloxane and an alkoxypropylalkylene glycol.

SOLUTION: This graft copolymer is obtained by randomly copolymerizing 2-66 wt.% of (A) an organic solvent-soluble fluororesin having radically polymerizable unsaturated bonding units through urethane bonds, 4-40 wt.% of (B) a polysiloxane radically polymerizable at a one-side end and expressed by formula I and/or formula II [R1 to R12 are each H or a 1-10C hydrocarbon; (n) and (q) are each >=2; (p) is 0-10] and 1-25 wt.% of (C) an alkoxypropylalkylene glycol radically polymerizable at a one-side end and expressed by formula III [R13 is H or a 1-10C hydrocarbon; R14 is a 1-10C hydrocarbon; R15 is a 1-10C hydrocarbon which may be a straight chain or branched chain and may be substituted with a halogen; (l) is >=1; (m) is an arbitrary integer] and 28-92 wt.% of (D) a radically polymerizable monomer except the ingredients A-C.

Data supplied from the esp@cenet database - I2



(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 2000119355 A

(43) Date of publication of application: 25 . 04 . 00

(51) Int. Cl

C08F290/12
C08F290/06
C09D155/00
C09D171/00
C09D183/07

(21) Application number: 10298397

(71) Applicant: FUJI KASEI KOGYO KK

(22) Date of filing: 20 . 10 . 98

(72) Inventor: MATAGAWA SHUICHI
ABE TOSHIHICO

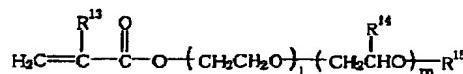
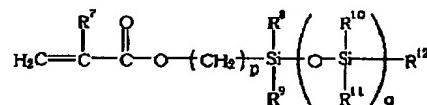
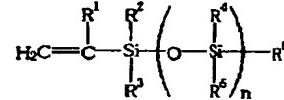
(54) GRAFT COPOLYMER AND COATING MATERIAL

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a graft copolymer capable of giving a coating film excellent in weatherability, luster, water droplet slipping properties, water repellency and antifouling properties, especially initial antifouling properties by randomly copolymerizing a specific fluororesin with a polysiloxane and an alkoxy polyalkylene glycol.

SOLUTION: This graft copolymer is obtained by randomly copolymerizing 2-66 wt.% of (A) an organic solvent-soluble fluororesin having radically polymerizable unsaturated bonding units through urethane bonds, 4-40 wt.% of (B) a polysiloxane radically polymerizable at a one-side end and expressed by formula I and/or formula II [R1 to R12 are each H or a 1-10C hydrocarbon; (n) and (q) are each ≤ 2 ; (p) is 0-10] and 1-25 wt.% of (C) an alkoxy polyalkylene glycol radically polymerizable at a one-side end and expressed by formula III [R13 is H or a 1-10C hydrocarbon; R14 is a 1-10C hydrocarbon; R15 is a 1-10C hydrocarbon which may be a straight chain or branched chain and may be substituted with a halogen; (l) is ≤ 1 ; (m) is an arbitrary integer] and 28-92 wt.% of (D) a radically polymerizable monomer except the ingredients A-C.





(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-119355
(P2000-119355A)

(43)公開日 平成12年4月25日(2000.4.25)

(51)Int.Cl.
C 0 8 F 290/12
290/06
C 0 9 D 155/00
171/00
183/07

識別記号

F I
C 0 8 F 290/12
290/06
C 0 9 D 155/00
171/00
183/07

テーマコード(参考)
4 J 0 2 7
4 J 0 3 8

B

審査請求 未請求 請求項の数 4 O.L. (全 13 頁)

(21)出願番号 特願平10-298397

(22)出願日 平成10年10月20日(1998.10.20)

(71)出願人 592042255

富士化成工業株式会社
東京都板橋区泉町21番1号

(72)発明者 保川 修一

埼玉県入間郡三芳町竹間沢253-2 富士
化成工業株式会社技術研究所内

(72)発明者 阿部 俊彦

埼玉県入間郡三芳町竹間沢253-2 富士
化成工業株式会社技術研究所内

(74)代理人 100077768

弁理士 佐々井 克郎

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 グラフト共重合体及び塗料

(57)【要約】

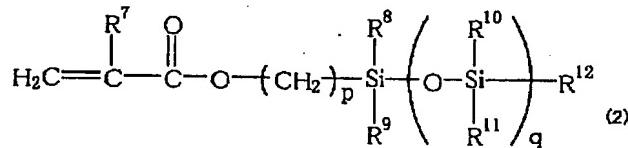
【課題】 塗膜としたときに優れた水滴滑り性、撥水性、耐汚染性及び初期耐汚染性を付与できる新規のグラフト共重合体及びそれを含有する塗料を提供する。

【構成】 グラフト共重合体は、(A)ウレタン結合を介してラジカル重合性不飽和結合部分を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂2~66重量%、(B)片末端ラジカル重合性ポリシロキサン4~40重量%、(C)片末端ラジカル重合性アルコキシボリアルキレングリコール1~25重量%、及び成分(A)、(B)、及び(C)以外のラジカル重合性单量体28~92重量%を共重合してなり、塗料はこのグラフト共重合体を含有してなる。

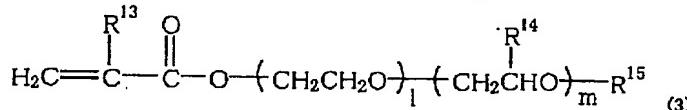
* (式中, R¹は水素原子又は炭素原子数1~10の炭化水素基であり, R², R³, R⁴, R⁵, 及びR⁶は互いに同一でも異なるてもよい水素原子又は炭素原子数1~10の炭化水素基であり, nは2以上の整数である)で示される片末端ラジカル重合性ポリシロキサン及び/又は下記一般式(2) :

【化2】

*10



(式中, R⁷は水素原子又は炭素原子数1~10の炭化水素基であり, R⁸, R⁹, R¹⁰, R¹¹, 及びR¹²は互いに同一でも異なるてもよい水素原子又は炭素原子数1~10の炭化水素基であり, pは0~10※



(式中, R¹³は水素原子又は炭素原子数1~10の炭化水素基であり, R¹⁴は炭素原子数1~10の炭化水素基であり, 及びR¹⁵は炭素原子数1~10の直鎖状又は分岐状のハロゲン原子で置換されていてもよい炭化水素基であり, lは1以上の整数であり, mは任意の整数である)で示される片末端ラジカル重合性アルコキシポリアルキレングリコール 1~25重量%, 及び(D) 成分(A), (B), 及び(C)以外のラジカル重合性单量体 28~92重量%, をランダム共重合してなるグラフト共重合体。

【請求項2】前記のウレタン結合を介してラジカル重合性不飽和結合部分を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂(A)が,

(A-1) 水酸基を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂と(A-2) イソシアネート基を有するラジカル重合性单量体との反応生成物である請求項1に記載のグラフト共重合体。

【請求項3】前記のイソシアネート基を有するラジカル重合性单量体(A-2)が, メタクリロイルイソシアネート, 2-イソシアナトエチルメタクリレート, 又はm-若しくはp-イソプロペニル- α , α -ジメチルベンジルイソシアネートから選ばれた单量体1種又は2種以上である請求項2に記載のグラフト共重合体。

【請求項4】請求項1~3のいずれか一項に記載のグラフト共重合体を含有することを特徴とする塗料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、グラフト共重合体及びそのグラフト共重合体を含有する塗料に関する。本発明によるグラフト共重合体及びそのグラフト共重合体を含有する塗料は、優れた水滴滑り性、撥水性、耐汚染性及び初期耐汚染性を同時に付与することができる

【0002】

30 【従来の技術】近年、特に高層建築物、車両の外装面等において美観を保つためや清掃作業の省力化等の観点から、塗膜のメインテナンスフリーが求められ、それを実現するために、高耐候性及び防汚性を有する塗料が熱望されている。高耐候性及び防汚性を有する塗料を得るために、高耐候性及び防汚性等の機能を有する樹脂が必要である。一般に、これらの機能を有する樹脂としては、有機溶剤可溶性フッ素樹脂が用いられている。この有機溶剤可溶性フッ素樹脂は、硬化剤と組み合わせて用いられ、従前のアクリル樹脂系塗料に比べ耐候性、撥水性については格段に優れているが、塗膜としたときの光沢、耐汚染性や初期耐汚染性については問題があった。

40 【0003】塗膜としたときの光沢を改良するものとして、例えば、特開平7-247324号公報には、有機溶剤可溶性フッ素樹脂の存在下にラジカル重合性单量体を重合し、グラフト共重合体を得る方法が記載されている。しかし、上記共重合体は耐候性は良好であるものの、耐汚染性及び初期耐汚染性については不十分なものである。また、上記公報記載の方法によると、有機溶剤可溶性フッ素樹脂に何ら変性が加えられていないため、グラフト反応の効率が非常に低く、往々にして反応混合

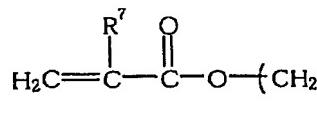
物に濁りが生じ、経時に二層分離するという問題点があった。

【0004】特公昭59-46964号公報には、耐候性に優れ、かつ顔料分散性の良好なグラフト共重合体の製造法として、有機溶剤可溶性フッ素樹脂に α , β -不飽和カルボン酸（例えば、無水マレイン酸）を反応させ、残余の二重結合の存在下にラジカル重合性单量体を重合する方法が記載されている。しかし、前記公報記載の方法で得られた共重合体も耐汚染性及び初期耐汚染性については依然不十分なものである。また、無水マレイン酸等の α , β -不飽和カルボン酸を反応させたフッ素樹脂はラジカル重合性が良好とはいえない、グラフト効率が低くなってしまうために、前記のグラフト共重合体同様に往々にして反応混合物に濁りが生じ、経時に二層分離が起こる場合があるという問題点があった。

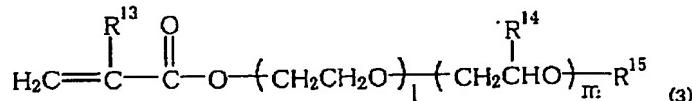
【0005】特開平10-158341号公報には、耐汚染性に優れ、塗料に好適なグラフト共重合体及び耐汚染性に優れた塗料が記載されている。しかし、前記公報記載のグラフト共重合体及び塗料は耐候性、耐汚染性は比較的良好であるものの、未だ十分であるとはいえない。また、初期耐汚染性、即ち汚染物質の付着自体を防ぐことについては全くといってよいほど効果がない。

従って、より耐汚染性、特に初期耐汚染性に優れたグラフト共重合体及び塗料の開発が望まれている。

【0006】



（式中、 R^7 は水素原子または炭素原子数1～10の炭化水素基であり、 R^8 , R^9 , R^{10} , R^{11} , 及び R^{12} は互いに同一でも異なっていてもよい水素原子または炭素原子数1～10の炭化水素基であり、 p は0～1*



（式中、 R^{13} は水素原子又は炭素原子数1～10の炭化水素基であり、 R^{14} は炭素原子数1～10の炭化水素基であり、 R^{15} は炭素原子数1～10の直鎖状又は分岐状のハロゲン原子で置換されていてもよい炭化水素基であり、1は1以上の整数であり、mは任意の整数である）で示される片末端ラジカル重合性アルコキシポリアルキレングリコール 1～25重量%，及び（D）

成分（A），（B），及び（C）以外のラジカル重合性单量体（以下、単に非反応性ラジカル重合性单量体と称することがある）28～92重量%，を共重合してなるグラフト共重合体によって解決することができる。

【0008】また、本発明は、前記のグラフト共重合体

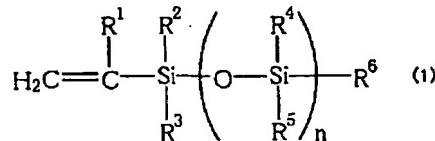
（3） 4

【発明が解決しようとする課題】上記のような状況下で、本発明の解決しようとしている課題は、塗膜としたときに耐候性、光沢に優れ、かつ優れた水滴滑り性、撥水性、及び耐汚染性、特に、優れた初期耐汚染性を有するグラフト共重合体、及びこのグラフト共重合体を含有してなる塗料を提供することにある。

【0007】

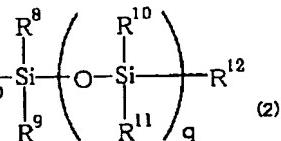
【課題を解決するための手段】前記の課題は、本発明により、（A）ウレタン結合を介してラジカル重合性不飽和結合を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂（以下、単にラジカル重合性フッ素樹脂と称することがある）2～66重量%，（B）下記一般式（1）：

【化4】



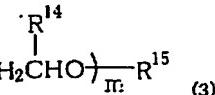
（式中、 R^1 は水素原子又は炭素原子数1～10の炭化水素基であり、 R^2 , R^3 , R^4 , R^5 ，及び R^6 は互いに同一でも異なっていてもよい水素原子又は炭素原子数1～10の炭化水素基であり、 n は2以上の整数である。）で示される片末端ラジカル重合性ポリシロキサン及び/又は、下記一般式（2）：

【化5】



*0の整数であり、 q は2以上の整数である。）で示される片末端ラジカル重合性ポリシロキサン 4～40重量%，及び（C）下記一般式（3）：

【化6】



を含有することを特徴とする塗料に関する。本発明による前記のグラフト共重合体を用いた塗料は、耐候性に優れ、かつ優れた水滴滑り性、撥水性、耐汚染性、初期耐汚染性を同時に有する。

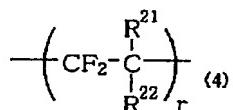
【0009】

【発明の実施の形態】以下、本発明のグラフト共重合体及びこのグラフト共重合体を含有する塗料について詳細に説明する。本発明に用いられるウレタン結合を介してラジカル重合性不飽和結合部分を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂（A），即ち、ラジカル重合性フッ素樹脂（A）は、例えば、水酸基を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂（A-1）とイソシアネート基を有するラジカル

重合性单量体 (A-2) を反応させることによって得ることができる。

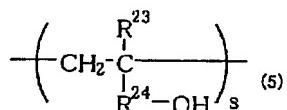
【0010】前記の水酸基を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂 (A-1) は、その構成成分として少なくとも水酸基含有单量体部分とポリフルオロパラフィン部分とを含むものであれば特に限定されるものではないが、例えば、繰り返し単位として、一般式 (4) :

【化7】



(式中、 R^{21} 及び R^{22} は、各繰り返し単位毎に独立して、かつ同一でも異なっていてもよく、水素原子、ハロゲン原子（例えばフッ素原子、又は塩素原子）、炭素数1～10のアルキル基（例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基又はヘキシル基）、炭素数6～10のアリール基（例えば、フェニル基）、ハロゲン原子（例えばフッ素原子、又は塩素原子）で1個又は複数個置換された炭素数1～10のアルキル基（例えば、トリフルオロメチル基、2, 2, 2-トリフルオロエチル基、トリクロロメチル基），あるいはハロゲン原子（例えばフッ素原子、又は塩素原子）で1個又は複数個置換された炭素数6～10のアリール基（例えば、ペンタフルオロフェニル基）であり、 r は2以上の整数である）で表される繰り返し単位、及び、一般式 (5) :

【化8】



(式中、 R^{23} は、各繰り返し単位毎に独立して、水素原子、ハロゲン原子（例えば、フッ素原子、又は塩素原子）、炭素数1～10のアルキル基（例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基又はヘキシル基）、炭素数6～10のアリール基（例えば、フェニル基）、ハロゲン原子（例えばフッ素原子、又は塩素原子）で1個又は複数個置換された炭素数1～10のアルキル基（例えば、トリフルオロメチル基、2, 2, 2-トリフルオロエチル基、トリクロロメチル基），あるいはハロゲン原子（例えばフッ素原子、又は塩素原子）で1個又は複数個置換された炭素数6～10のアリール基（例えば、ペンタフルオロフェニル基）であり、 R^{24} は、繰り返し単位毎に独立して、 OR^{25a} 基、 $\text{CH}_2\text{OR}^{25b}$ 基、 COOR^{25c} 基から選択した2価の基であり、 R^{25a} 、 R^{25b} 、及び R^{25c} は、炭素数1～10のアルキレン基（例えば、メチレン基、エチレン基、トリメチレン基、テトラメチレン基、又はヘキサメチレン基）、炭素数6～10のシクロアルキレン基（例えば、シクロヘキシレン基）、炭素数2～10のア

ルキリデン基（例えばイソプロピリデン基）、及び炭素数6～10のアリーレン基（例えば、フェニレン基、トリレン基、キシリレン基）から選択した2価の残基であり、 s は2以上の整数である）で表される繰り返し単位を含むものであることができる。更に、前記の水酸基を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂 (A-1) は、その構成成分として、例えば、一般式 (6) :

【化9】



(式中、 R^{26} は、各繰り返し単位毎に独立して、水素原子、ハロゲン原子（例えば、フッ素原子、又は塩素原子）、炭素数1～10のアルキル基（例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基又はヘキシル基）、炭素数6～10のアリール基（例えば、フェニル基）、ハロゲン原子（例えばフッ素原子、又は塩素原子）で1個又は複数個置換された炭素数1～10のアルキル基（例えば、トリフルオロメチル基、2, 2, 2-トリフルオロエチル基、トリクロロメチル基），あるいはハロゲン原子（例えばフッ素原子、又は塩素原子）で1個又は複数個置換された炭素数6～10のアリール基（例えば、ペンタフルオロフェニル基）であり、 R^{27} は、繰り返し単位毎に独立して、 OR^{28a} 基又は OCOR^{28b} 基であり、 R^{28a} 及び R^{28b} は、水素原子、ハロゲン原子（例えば、フッ素原子、又は塩素原子）、炭素数1～10のアルキル基（例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基又はヘキシル基）、炭素数6～10のアリール基（例えば、フェニル基）、ハロゲン原子（例えばフッ素原子、又は塩素原子）で1個又は複数個置換された炭素数1～10のアルキル基（例えば、トリフルオロメチル基、2, 2, 2-トリフルオロエチル基、トリクロロメチル基），あるいはハロゲン原子（例えばフッ素原子、又は塩素原子）で1個又は複数個置換された炭素数6～10のアリール基（例えば、ペンタフルオロフェニル基）であり、 t は2以上の整数である）で表される繰り返し単位を含むことができる。この一般式 (6) で表される繰り返し単位を含むことにより、有機溶剤に対する溶解性を向上させることができる。

【0011】前記の水酸基を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂 (A-1) の水酸基価は、5～250であることが好ましく、10～200であることがより好ましく、20～150であることが更に好ましい。水酸基価が5未満であると、イソシアネート基を有するラジカル重合性单量体 (A-2) の導入量が著しく少なくなるために反応混合物が濁り、経時に二層分離することがある。一方、水酸基価が250を越えると後述の片末端ラジカル重合性ポリシロキサン (B) との相溶性が悪化し、グ

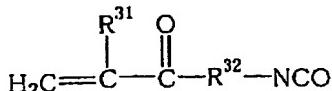
ラフト共重合が進行しなくなる場合がある。前記水酸基を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂(A-1)は酸価を有していることでもできる。即ち、遊離カルボキシル基を有していることによって、後述のメラミン、イソシアネートプレポリマー、ブロック化イソシアネートプレポリマー等の硬化剤と組み合わせたときの反応率が上昇するため、塗膜硬度、水滴滑り性、撥水性、耐汚染性、及び初期耐汚染性が向上するため好ましい。

【0012】本発明で用いる水酸基を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂(A-1)は公知の方法で調製することができるが、あるいは市販品を用いることもできる。市販品としては、ビニルエーテル系フッ素樹脂(ルミロンLF-100, LF-200, LF-302, LF-400, LF-554, LF-600, LF-986N:旭硝子株式会社製), アリルエーテル系フッ素樹脂(セフラルコートPX-40, A606X, A202B, CF-803:セントラル硝子株式会社製), カルボン酸ビニル/アクリル酸エステル系フッ素樹脂(ザフロンFC-110, FC-220, FC-250, FC-275, FC-310, FC-575, XFC-973:東亜合成株式会社製), 又はビニルエーテル/カルボン酸ビニル系フッ素樹脂(フルオネート;大日本インキ株式会社製)等を挙げることができる。前記の水酸基を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂(A-1)は、単独で使用するか又は2種類以上を混合して使用することができる。市販品の数平均分子量は、3,500ないし30,000程度のものが知られている。

【0013】イソシアネート基を有するラジカル重合性单量体(A-2)は、イソシアネート基とラジカル重合性を有する部分とを含むものであれば特に限定されるものではないが、好適なイソシアネート基を有するラジカル重合性单量体(A-2)としては、例えば一般式

(7):

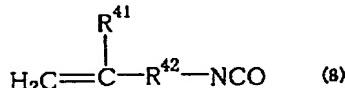
【化10】



(7)

(式中、R³¹は、水素原子又は炭素数1~10の炭化水素基、例えば炭素数1~10のアルキル基(例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基、ペンチル基又はヘキシル基)、炭素数6~10のアリール基(例えば、フェニル基)、又は炭素数3~10のシクロアルキル基(例えばシクロヘキシル基)であり、R³²は水素原子又は炭素数1~10の直鎖状又は分岐状の2価炭化水素基、例えば、炭素数1~10のアルキレン基(例えば、メチレン基、エチレン基、トリメチレン基、テトラメチレン基、又はヘキサメチレン基)、炭素数2~10のアルキリデン基(例えばプロピリデン基)、炭素数6~10のアリール基(例えば、フェニレン基、トリレン基、又はキシリレン基)、又は炭素数3~10のシクロアルキレン基(例えばシクロヘキシレン基)である)で表されるラジカル重合性单量体、あるいは一般式(8):

【化11】



(式中、R⁴¹は、水素原子又は炭素数1~10の炭化水素基、例えば炭素数1~10のアルキル基(例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基、ペンチル基又はヘキシル基)、炭素数6~10のアリール基(例えば、フェニル基)、又は炭素数3~10のシクロアルキル基(例えばシクロヘキシル基)であり、R⁴²は水素原子又は炭素数1~10の直鎖状又は分岐状の2価炭化水素基、例えば、炭素数1~10のアルキレン基(例えば、メチレン基、エチレン基、トリメチレン基、テトラメチレン基、又はヘキサメチレン基)、炭素数2~10のアルキリデン基(例えばプロピリデン基)、炭素数6~10のアリール基(例えば、フェニレン基、トリレン基、又はキシリレン基)、又は炭素数3~10のシクロアルキレン基(例えばシクロヘキシレン基)である)で表されるラジカル重合性单量体を用いるのが好ましい。

【0014】前記のイソシアネート基を有するラジカル重合製单量体(A-2)としては、メタクリロイルイソシアネート、2-イソシアナトエチルメタクリレート、又はm-若しくはp-イソプロペニル-α, α-ジメチルベンジルイソシアネートの1種又は2種以上を用いるのが好ましい。

【0015】前記の水酸基を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂(A-1)と前記のイソシアネート基を有するラジカル重合性单量体(A-2)とから前記のラジカル重合性フッ素樹脂(A)を調製する反応では、前記のイソシアネート基を有するラジカル重合性单量体(A-2)を、前記の水酸基を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂(A-1)の水酸基1当量あたり、好ましくは0.001モル以上0.1モル未満の量、より好ましくは0.01モル以上0.08モル未満の量で反応させる。このイソシアネート基を有するラジカル重合性单量体(A-2)が0.001モル未満であるとグラフト共重合が困難となり、反応混合物が濁り、経時的に二層分離することがあり好ましくない。また、0.1モル以上であるとグラフト共重合の際にゲル化が起こりやすくなり好ましくない。また、水酸基を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂(A-1)とイソシアネート基を有するラジカル重合性单量体(A-2)の反応は、無触媒下あるいは触媒存在下、室温~80°Cで行うことができる。

【0016】こうして得られた前記のラジカル重合性フ

ツ素樹脂（A）は、使用する成分全量に対して2～66重量%，好ましくは5～50重量%の範囲で用いられる。2重量%未満とすると塗膜としたときの耐候性が低下することがあり、66重量%を越えるとグラフト共重合時にゲル化することがある。

【0017】本発明においては、片末端ラジカル重合性ポリシロキサン（B）として、前記一般式（1）で示される単量体を用いることができる。前記一般式（1）中のR¹は水素原子または炭素数1～10の炭化水素基である。本明細書において炭素数1～10の炭化水素基とは、例えば、炭素数1～10のアルキル基（例えばメチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基、ペンチル基、ヘキシル基）、炭素数6～10のアリール基（例えばフェニル基），又は炭素数3～10のシクロアルキル基（例えばシクロヘキシル基）を挙げることができる。R¹は、好ましくは水素原子、メチル基である。また、前記一般式（1）中のR²，R³，R⁴，R⁵，R⁶は互いに同一でも異なっていてもよい。R²，R³，R⁴，R⁵は、それぞれ独立してメチル基、フェニル基であることが好ましく、R⁶はメチル基、ブチル基、又はフェニル基であることが好ましい。また、前記一般式（1）中のnは2以上の整数であり、好ましくは10以上の整数、より好ましくは30以上の整数である。

【0018】また、本発明においては、片末端ラジカル重合性ポリシロキサン（B）として、前記一般式（2）で示される単量体を用いることもできる。前記一般式（2）において、R⁷は水素原子または炭素原子数1～10の炭化水素基であり、好ましくは水素原子、メチル基である。また、前記一般式（2）式のR⁸，R⁹，R¹⁰，R¹¹，R¹²は互いに同一でも異なっていてもよい。R⁸，R⁹，R¹⁰，R¹¹はそれぞれ独立してメチル基、フェニル基であることが好ましく、R¹²はメチル基、ブチル基、又はフェニル基であることが好ましい。また前記一般式（2）中のpは0～10の整数であり、好ましくは3である。また、前記一般式（2）中のqは2以上の整数であり、好ましくは10以上の整数、より好ましくは30以上の整数である。

【0019】このような片末端ラジカル重合性ポリシロキサン（B）は公知の方法で調製することができるが、市販品を用いることもできる。市販品として、例えば、サイラブレーンFM-0711（数平均分子量1000，チッソ株式会社製），サイラブレーンFM-0721（数平均分子量5000，チッソ株式会社製），サイラブレーンFM-0725（数平均分子量10000，チッソ株式会社製），X-22-174DX（数平均分子量4600，信越化学工業株式会社製）等を挙げることができる。

【0020】本発明においては、前記一般式（1）で示される片末端ラジカル重合性ポリシロキサンを単独で又は2種類以上混合して、あるいは前記一般式（2）で表

される片末端ラジカル重合性ポリシロキサンを単独で又は2種類以上混合して使用することができ、更には前記一般式（1）で表される片末端ラジカル重合性ポリシロキサンの1種若しくはそれ以上と前記一般式（2）で表される片末端ラジカル重合性ポリシロキサンの1種若しくはそれ以上とを混合して使用することができる。

【0021】これらの片末端ラジカル重合性ポリシロキサン（B）は、使用する成分全量に対して5～40重量%，好ましくは5～30重量%の範囲で用いられる。5重量%未満とすると所期の目的である水滴滑り性、撥水性、耐汚染性、初期耐汚染性が不十分となることがあり、40重量%を越えると重合後の未反応単量体成分が多くなり、塗膜の軟化、未反応単量体成分のブリード等好ましくない事態を招くことがある。

【0022】本発明における片末端ラジカル重合性アルコキシポリアルキレングリコール（C）としては、前記一般式（3）で示される単量体を用いることができる。

前記一般式（3）中のR¹³は水素原子又は炭素数1～10の炭化水素基であり、好ましくは水素原子又はメチル基である。また、前記一般式（3）中のR¹⁴は炭素数1～10の炭化水素基であり、好ましくはメチル基である。

また、前記一般式（3）中のR¹⁵は炭素数1～10の直鎖状又は分岐状のハロゲン原子で置換されていてもよい炭化水素基であり、好ましくはアルキル基（例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基），フェニル基、又はアルキル置換フェニル基である。また、前記一般式（3）中の1は1以上の整数であり、好ましくは2～100の整数である。また、前記一般式（3）中のmは任意の整数であり、好ましくは0～100、より好ましくは0である。

【0023】このような片末端ラジカル重合性アルコキシポリアルキレングリコール（C）は公知の方法で調製することができるが、市販品を用いることもできる。市販品としては、例えば、ブレンマーPME-100，PME-200，PME-400，PME-4000，50POEP-800B（日本油脂株式会社製），ライトエスケルMC，MTG，130MA，041MA（共栄社化学株式会社製），ライトアクリレートBO-A，EC-A，MTG-A，130A（共栄社化学株式会社製）等を挙げることができる。

【0024】本発明においては、前記一般式（3）で表される片末端ラジカル重合性アルコキシポリアルキレングリコール（C）は単独で又は2種類以上を混合して用いることができる。

【0025】これらの片末端ラジカル重合性アルコキシポリアルキレングリコール（C）は、使用する成分全量に対して1～25重量%，好ましくは1～15重量%の範囲で用いられる。1重量%未満とすると所期の目的である耐汚染性が不十分となる場合があり、25重量%を越えると塗膜の耐水性が低下することがある。

【0026】成分(A), (B), 及び(C)以外のラジカル重合性单量体(D), 即ち, 前記の非反応性ラジカル重合性单量体(D)とは, その单量体が, ラジカル重合に関与する部分とともに, 少なくとも, ラジカル重合の際の条件下で, 前記のラジカル重合性フッ素樹脂(A)とラジカル重合以外の反応をしない官能基を有していてもよいということを意味する。このような官能基としては, 具体的には, 例えば, ハロゲン原子(例えば, フッ素原子, 塩素原子, 又は臭素原子), 炭素数1~20のアルキル基(例えば, メチル基, エチル基, プロピル基, プチル基, ヘキシル基, ラウリル基, 又はステアリル基), 炭素数6~10のアリール基(例えば, フェニル基, トリル基, 又はキシリル基), 又はアルキル部分の炭素数が1~10でアリール部分の炭素数が6~10のアラルキル基(例えば, ベンジル基), (前出のアルキル基, アリール基, 及びアラルキル基をまとめて, 以下単に“炭化水素基R”と称することがある), 水酸基1個又は複数個を有する前記炭化水素基R(例えば, ヒドロキシメチル基, ヒドロキシエチル基, ヒドロキシプロピル基, 2-, 3-ジヒドロキシプロピル基, ヒドロキシブチル基, ヒドロキシフェニル基, 又は4-ヒドロキシメチルフェニル基), ニトリル基1個又は複数個を有する前記炭化水素基R(例えば, シアノエチル基), エーテル基1個又は複数個を有する前記炭化水素基R(例えば, メトキシメチル基, エトキシエチル基, 又はメトキシメトキシメチル基), エステル基1個又は複数個を有する前記炭化水素基R(例えば, アセトキシメチル基), 第3アミノ基1個又は複数個を有する前記炭化水素基R(例えば, ジメチルアミノメチル基, 又はジエチルアミノエチル基), エポキシ基1個又は複数個を有する前記炭化水素基R(例えば, グリシジル基, 又は3-, 4-エポキシシクロヘキシルメチル基), アミド基1個又は複数個を有する前記炭化水素基R, カルボキシル基1個又は複数個を有する前記炭化水素基R(例えば, カルボキシメチル基), ウレタン基1個又は複数個を有する前記炭化水素基R, 尿素基1個又は複数個を有する前記炭化水素基R, アルコキシシリル基1個又は複数個を有する前記炭化水素基R(例えば, トリメトキシシリルメチル基, 又はジメトキシメチルシリルメチル基)等を挙げることができる。

【0027】一方, 前記のラジカル重合の際に, 前記のラジカル重合性フッ素樹脂とラジカル重合反応以外の反応をする可能性のある官能基としては, 例えば, 单量体を酸ハロゲン化物(例えば, カルボン酸塩化物, カルボン酸臭化物, リン酸塩化物, 又はスルホン酸塩化物), 酸無水物(例えば, 無水マレイン酸), イソシアネート化合物等とする官能基を挙げることができる。前記の非反応性ラジカル重合性单量体(D)は, これらの官能基を持つことはできないが, 前記のラジカル重合性フッ素樹脂(A)と前記の条件下で反応しない任意の官能基を

有することができる。

【0028】具体的には, 例えば, スチレン, p-メチルスチレン, p-クロロメチルスチレン, 又はビニルトルエン等のスチレン系单量体; メチル(メタ)アクリレート, エチル(メタ)アクリレート, n-ブロピル(メタ)アクリレート, i-ブロピル(メタ)アクリレート, n-ブチル(メタ)アクリレート, i-ブチル(メタ)アクリレート, t e r t -ブチル(メタ)アクリレート, n-ヘキシル(メタ)アクリレート, シクロヘキシル(メタ)アクリレート, 2-エチルヘキシル(メタ)アクリレート, ラウリル(メタ)アクリレート, ステアリル(メタ)アクリレート, イソボルニル(メタ)アクリレート, アダマンチル(メタ)アクリレート, フェニル(メタ)アクリレート, 又はベンジル(メタ)アクリレート等の炭化水素基をもつ(メタ)アクリレート系单量体; これらの(メタ)アクリレート系单量体の水素原子をフッ素原子, 塩素原子, 又は臭素原子等で置換した(メタ)アクリレート系单量体; 酢酸ビニル, 安息香酸ビニル, 又は分岐状モノカルボン酸のビニルエステル(ペオバ: シェル化学株式会社製)等のビニルエステル系单量体; アクリロニトリル, 又はメタクリロニトリル等のアクリロニトリル系单量体; エチルビニルエーテル, n-ブチルビニルエーテル, i-ブチルビニルエーテル, 又はシクロヘキシルビニルエーテル等のビニルエーテル系单量体; (メタ)アクリルアミド, ジメチル(メタ)アクリルアミド, 又はジアセトニアクリルアミド等のアクリルアミド系单量体; ビニルビリジン, N, N-ジメチルアミノエチル(メタ)アクリレート, N, N-ジエチルアミノエチル(メタ)アクリレート, N, N-ジメチル(メタ)アクリルアミド, 4-(N, N-ジメチルアミノ)スチレン, 又はN-{2-(メタ)アクリロイルオキシエチル}ビペリジン等の塩基性窒素含有ビニル化合物系单量体; グリシジル(メタ)アクリレート, 3-, 4-エポキシシクロヘキシルメチル(メタ)アクリレート, 又は3-, 4-エポキシビニルシクロヘキサン等のエポキシ基含有ビニル化合物系单量体; (メタ)アクリル酸, アンゲリカ酸, クロトン酸, マレイン酸, 4-ビニル安息香酸, p-ビニルベンゼンスルホン酸, 2-(メタ)アクリロイルオキシエタンスルホン酸, 又はモノ{2-(メタ)アクリロイルオキシエチル}アシッドホスフェート等の酸性ビニル化合物系单量体; p-ヒドロキシメチルスチレン, 2-ヒドロキシエチル(メタ)アクリレート, 2-ヒドロキシプロピル(メタ)アクリレート, 3-ヒドロキシプロピル(メタ)アクリレート, 2-ヒドロキシブチル(メタ)アクリレート, 4-ヒドロキシブチル(メタ)アクリレート, ジ-2-ヒドロキシエチルフマレート, ポリエチレングリコール若しくはポリプロピレングリコールモノ(メタ)アクリレート, 又はこれらのε-カプロラクトン付加物, (メタ)アクリル酸, クロトン酸, マレイン

酸、フマル酸、イタコン酸、若しくはシトラコン酸のような α , β -エチレン性不飽和カルボン酸と ϵ -カプロラクトンとの付加物、前記の α , β -エチレン性不飽和カルボン酸のヒドロキシアルキルエステル類、又は前記の α , β -エチレン性不飽和カルボン酸とブチルグリジルエーテル、フェニルグリジルエーテル、分岐状カルボン酸グリジルエーテル（カージュラE；シェル化學株式会社製）のようなエポキシ化合物との付加物等の水酸基含有ビニル化合物系单量体；ビニルトリメトキシシラン、 γ -メタクリルオキシエチルトリメトキシシラン、 γ -メタクリルオキシエチルメチルジメトキシシラン等のシラン化合物系单量体；エチレン、プロピレン等のオレフィン系单量体；塩化ビニル、塩化ビニリデン、臭化ビニル、フッ化ビニル、テトラフルオロエチレン、又はクロロトリフルオロエチレン等のハロゲン化オレフィン系单量体；その他マレイミド、ビニルスルホン等を挙げることができる。

【0029】前記の非反応性ラジカル重合性单量体

(D)としては、前記の单量体を単独で用いても、あるいは2種類以上を混合して用いてもよく、主として共重合性の観点から（メタ）アクリレート系が好ましく用いられる。

【0030】前記の非反応性ラジカル重合性单量体

(D)は、使用する成分全量に対し28～92重量%，好ましくは30～70重量%の範囲で用いられる。28重量%未満では共重合体のガラス転移点、即ち塗膜としたときの硬度の調整が困難となり、92重量%を越えると水滴滑り性、撥水性、耐汚染性、初期耐汚染性が不十分となる。

【0031】本発明において、前記の片末端ラジカル重合性ポリシロキサン（B）と前記の片末端アルコキシリアルキレングリコール（C）と前記の非反応性ラジカル重合性单量体（D）との合計使用重量に対する前記のラジカル重合性フッ素樹脂（A）の使用重量の比率（即ち、A/（B+C+D）；以下、「フッ素樹脂/アクリル比」と称することがある）は、2/1～1/50の範囲であることが好ましい。フッ素樹脂/アクリル比が2/1未満の場合には、塗膜としたときに光沢が低下することがある。また、フッ素樹脂/アクリル比が1/50を越える場合には耐候性が低下することがある。

【0032】前記のラジカル重合性フッ素樹脂（A）と、前記の片末端ラジカル重合性ポリシロキサン（B）と前記の片末端アルコキシリアルキレングリコール（C）と前記の非反応性ラジカル重合性单量体（D）とを用いて本発明の共重合体を調製するには、公知慣用の任意の重合方法を用いることができ、中でも溶液ラジカル重合法又は非水分散ラジカル重合法によるのが最も簡便であり、特に好ましい。

【0033】重合の際に用いられる溶剤としては、例えば、トルエン、キシレン、又は芳香族炭化水素の混合溶

剤（ソルベツソ100；エッソ石油株式会社製）等の芳香族炭化水素化合物；n-ヘキサン、シクロヘキサン、オクタン、ミネラルスピリット、又はケロシン等の脂肪族、脂環族炭化水素化合物；酢酸エチル、酢酸n-ブチル、酢酸i-ブチル、又はブチルセロソルブアセテート等のエステル系化合物；メタノール、エタノール、n-ブロパノール、i-ブロパノール、n-ブタノール、i-ブタノール、エチレングリコール、プロピレングリコール、エチルセロソルブ、ブチルセロソルブ等のアルコール系化合物等を挙げることができ、これらの溶剤は単独で又は2種類以上を組み合わせて用いることができる。

【0034】前記の重合は、公知慣用の種々のラジカル重合開始剤、例えば、アゾ系化合物又は過酸化物系化合物のようなラジカル重合開始剤を用いて、常法により実施することができる。重合時間は特に制限されないが、通常1～48時間の範囲が選ばれる。また、重合温度は通常30～120°C、好ましくは60～100°Cである。前記の重合は、更に必要に応じて公知慣用の連鎖移動剤、例えば、ブチルメルカプタン、ドデシルメルカプタン、又は α -メチルスチレンダイマー等を添加して実施することもできる。

【0035】本発明におけるグラフト共重合体の分子量は特に限定されるものではないが、その重量平均分子量が、ポリスチレン換算のGPC（ゲルパーキエーションクロマトグラフィー）により、好ましくは約5,000～2,000,000、より好ましくは約10,000～1,000,000の範囲である。5,000未満とすると造膜性、耐候性、又は耐薬品性が低下し、2,000,000を越えると重合時にゲル化する危険がある。

【0036】このようにして得られた本発明のグラフト共重合体は、塗料のバインダー成分として使用することができる。本発明の塗料は、前記グラフト共重合体を含有してなるものである。本発明の前記グラフト共重合体の溶液をそのまま用いて塗料としてもよいが、前記グラフト共重合体と硬化剤とを組み合わせて硬化型塗料とすることが好ましい。

【0037】硬化型塗料とする場合には、一般にアクリル硬化型塗料の硬化剤として知られているものと、前記グラフト共重合体とを組み合わせて調製することができる。このような硬化剤としては、例えば、アニリンアルデヒド樹脂、尿素樹脂、メラミン樹脂、イソシアネートプレポリマー、又はブロック化イソシアネートプレポリマー等を挙げることができる。

【0038】本発明のグラフト共重合体の水酸基価は、硬化塗膜の性質を左右する因子の一つである。この水酸基価は、前記のラジカル重合性フッ素樹脂（A）成分の水酸基価で調整することができ、更に、前記の非反応性ラジカル重合性单量体（D）成分中に水酸基を有する單

量体が含まれる場合にはその使用量によって調整することができる。グラフト共重合体の水酸基価は特に制限されるものではないが、10～200とすることが塗膜硬度、耐薬品性、及び耐汚染性の点から好ましい。

【0039】また、本発明の塗料の樹脂固形分は特に制限されるものではなく、用途、塗装方法によって適宜選択されるが、通常10～40重量%とすることが好ましい。本発明の塗料における乾燥条件も特に制限されないが、通常、室温～200°Cの範囲で1分間～7日間程度の乾燥を行って塗装せしめる。更に、本発明の塗料は必要に応じて各種添加剤、例えば、界面活性剤、增量剤、着色顔料、防錆顔料、フッ素樹脂粉末、シリコーン樹脂粉末、防錆剤、染料、ワックス等を添加してもよい。

【0040】

【実施例】以下、実施例によって本発明を具体的に説明するが、これらは本発明の範囲を限定するものではない。以下の製造例等において“部”及び“%”は特に示さない限り“重量部”及び“重量%”を意味するものとする。

【0041】以下の製造例等において用いられた材料の市販品名を次に示す。

(1) 水酸基を有する有機溶剤可溶性フッ素樹脂 (A-1)

セフラルコートCF-803 (水酸基価60, 数平均分子量15,000; セントラル硝子株式会社製)

(2) 片末端ラジカル重合性ポリシロキサン (B)

サイラブレーンFM-0721 (数平均分子量5,000; チッソ株式会社製)

(3) 片末端アルコキシボリアルキレンゲリコール

(C)

ブレンマーPME-400 (分子量470; 日本油脂株式会社製)

(4) ラジカル重合開始剤

バーブチルO (t-ブチルバーオキシ-2-エチルヘキサノエート; 日本油脂株式会社製)

(5) 硬化剤

スマッシュルN3200 (ヘキサメチレンジイソシアネートのビウレット型プレポリマー; 住友バイエルウレタン株式会社製)

【0042】また、下記の実施例及び比較例における物性評価試験方法を以下に示す。

(1) キシレンスポット試験

硬化塗膜上にキシレンを1滴載せ、キシレンが蒸発するまで室温で放置し、塗膜の状態を観察した。以下の3段階で評価し、その結果を表2に示す。即ち、変化が全く認められないものを○、リング状の跡が残るものを△、塗膜が膨潤あるいは溶解するものを×で表した。

(2) 耐水性

硬化塗膜を水道水中に1ヶ月浸漬し、塗膜の状態を観察した。以下の2段階で評価し、結果を表2に示す。即

ち、変化が全く認められないものを○、塗膜が膨潤又は白亜化するものを×で表した。

(3) 初期耐汚染性

硬化塗膜上にマジックインキ（赤色）で線を引き、そのはじき具合を調べた。以下の3段階で評価し、結果を表2に示す。即ち、油滴状にはじき、布で簡単にふき取れるものを○、油滴状にはじき、一部分はふき取れるが、ふき取れずに硬化塗膜上に一部が残存するものを△、はじきず線が引け、布でふき取れないものを×で表した。

(4) 汚染除去性（耐汚染性）

硬化塗膜上にマジックインキ（青色、黒色、赤色、及び緑色の4色）で線を引き、室温で24時間乾燥後、青色及び黒色のマジックインキについてはエタノールをしみ込ませた布でふき取り、赤色及び緑色のマジックインキについてはキシレンをしみ込ませた布で拭き取った。その結果を以下の3段階で評価し、表2に示す。即ち、マジックインキの跡が全く残らないものを○、僅かに跡が残るものを△、はっきりと跡が残るものを×で表した。

(5) 水滴滑り性

水平に保った硬化塗膜上に、脱イオン水の水滴（20μl又は30μl）をそれぞれ5滴づつ載せ、硬化塗膜を水平状態から徐々に傾け、前記の5滴の水滴が滑り始めた角度をそれぞれ測定した。測定値のうちで最も小さい測定値と最も大きい測定値を捨て、残った3つの測定値の平均値を10°単位で評価し、表2に示す。

【0043】

【参考例1】本例では、本発明におけるラジカル重合性フッ素樹脂 (A) の合成手順を示す。機械式攪拌装置、温度計、コンデンサー及び乾燥窒素ガス導入口を備えたガラス製反応器に、セフラルコートCF-803 (15.54部), キシレン (23.3部), 2-イソシアナトエチルメタクリレート (6.3部) を入れ、乾燥窒素雰囲気下80°Cに加熱した。80°Cで2時間反応し、サンプリング物の赤外吸収スペクトルによりイソシアネートの吸収が消失したことを確認した後、反応混合物を取り出し、ラジカル重合性フッ素樹脂 (A-I) を得た。

【0044】

【製造例1】本例では、本発明によるグラフト共重合体の合成手順を示す。機械式攪拌装置、温度計、コンデンサー及び乾燥窒素ガス導入口を備えたガラス製反応器に、参考例1で合成したラジカル重合性フッ素樹脂 (A-I) (26.7部), キシレン (14.2部), 酢酸n-ブチル (13.7部), メチルメタクリレート (5.4部), n-ブチルメタクリレート (2.7部), ラウリルメタクリレート (0.9部), 2-ヒドロキシエチルメタクリレート (1.8部), FM-0721 (1.3部), PME-400 (1.3部), バーブチルO (0.1部) を入れ、窒素雰囲気中で90°Cまで加熱した後、90°Cで2時間保持した。バーブチルO (0.1部) を追加し、更に90°Cで5時間保持するこ

(10)

特開2000-119355

18

片末端アルコキシポリアルキレンクリコール（C）を使用しない場合、比較製造例2では片末端ラジカル重合性ポリシロキサン（B）を使用しない場合、比較製造例3では片末端ラジカル重合性ポリシロキサン（B）を本発明の請求項を逸脱する50重量%とした場合、比較製造例4では片末端アルコキシポリアルキレンクリコール（C）を本発明の請求項を逸脱する40重量%とした場合について示した。

【0046】

10 【表1】

17

とによって、不揮発分が40%で、重量平均分子量が146000である目的とするグラフト共重合体の溶液を得た。

【0045】

【製造例2～10及び比較製造例1～4】本例では、本発明によるグラフト共重合体の合成手順と、比較用のグラフト共重合体の合成手順とを示す。溶剤、単量体、開始剤類の仕込量を表1に示したように変更したこと以外は、製造例1と同様に操作して目的とするグラフト共重合体の溶液を得た。製造例2～10では本発明によるグラフト共重合体が得られる。一方、比較製造例1では

	製造例1 製造例2 製造例3 製造例4 製造例5 製造例6 製造例7 製造例8 製造例9 製造例10 比較製造例1 比較製造例2 比較製造例3 比較製造例4										
A-1 ¹⁾	26.7	17.8	13.3	4.4	17.8	17.8	17.8	17.8	17.8	17.8	17.8
部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部
キシレン	14.2	18.7	21.0	22.9	18.7	18.7	18.7	18.6	18.7	18.7	18.4
酢酸ブチル	13.7	13.7	13.8	12.7	13.7	13.7	13.7	13.7	13.7	13.7	13.6
MA-2)	6.4	7.7	8.9	10.1	6.2	8.2	6.9	6.3	8.5	8.5	0.4
IMA-3)	2.7	3.8	4.4	5.0	3.1	4.1	3.4	2.6	2.6	4.2	0.2
IMA-4)	0.9	1.2	1.4	1.6	1.0	1.3	1.1	0.8	0.8	1.4	0.1
HEMA-5)	2.4	2.7	3.1	4.9	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4
FH-0721	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	0.6	1.3	1.3	5.4	1.3	13.6
PHE-400	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	0.5	2.7	5.4	1.3	1.3
ペーブチル0(溶剤分)	部	0.1	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1
ペーブチル0(溶剤分)	部	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
Si含有率(Calcd.) ⁶⁾	5	5	5	5	2	5	5	5	5	5	5
PUG合計率(Calcd.) ⁶⁾	5	5	5	5	5	2	10	20	5	5	40
水酸基(Calcd.) ⁷⁾	g/eq	59	69	69	99	69	69	59	59	59	59
フタノニアクリル比	1/1	1/2	1/3	1/10	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2
重量平均分子量	146000	128000	96000	56000	56000	42000	132000	106000	118000	206000	n.d. ⁸⁾
不揮発分	%	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40

1) 参考例1で合成したブラン糊樹脂、2) メチルメタクリレート、3) プチルメタクリレート。

4) ラウリルメタクリレート、5) 2-ヒドロキシエチルメタクリレート。

6) 樹脂分中のポリシロキサン含有率、7) 樹脂分の水酸基価、8) 測定せず。

【0047】

【実施例1】製造例1で得られたグラフト共重合体の水酸基当量に対して当量のスマジュールN 3200を加え、更に塗料中の不揮発分が35重量%になるようにキシレンで希釈した。予めトルエン/イソプロピルアルコール(2/1)混合溶剤で脱脂、乾燥した電気メッキブリキ板(66×100mm)上に、前記の塗料組成物をバーコーター#20を用いて塗布した。これを140°Cで30分間加熱硬化して硬化塗膜を得た。前述の各種試

験を行い、結果を表2に示す。この硬化塗膜の初期水滴滑り性は~30°/20μl、~20°/30μlと良好であり、しかも初期防汚性及び汚染除去性も良好な結果を示した。

【0048】

【実施例2~10及び比較例1~4】製造例2~10及び比較製造例1~4で得られたグラフト共重合体に対して、前記の実施例1と同様にして硬化塗膜を作製し、前述の各種物性評価試験を行った。結果を表2に示す。実

施例2~10においては全ての評価項目において良好なる結果を示したが。比較例1及び比較例2においては初期耐汚染性及び汚染除去性に難点が観察された。比較例3においては硬化塗膜表面に未反応残存单量体のブリードが観察された。

*ドが観察された。また、比較例4においては初期耐汚染性及び耐水性が著しく悪かった。

【0049】

【表2】

グラフト共重合体	製造例1	製造例2	製造例3	製造例4	製造例5	製造例6	製造例7	製造例8	製造例9	製造例10	比較例1	比較例2	比較例3	比較例4	
実施例1 実施例2 実施例3 実施例4 実施例5 実施例6 実施例7 実施例8 実施例9 実施例10 実施例11 実施例12 実施例13 実施例14 実施例15 実施例16															
スミジュールNS200	7.9	7.9	7.9	7.9	7.1	7.9	7.9	7.9	7.9	7.9	7.9	7.9	7.9	7.9	7.9
キシレン	0.6	0.6	0.6	0.6	0.9	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
表面状態	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
キシレンスプット試験	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
耐水性	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
初期耐汚染性(はじき)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
初期耐汚染性(ふきとり)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
汚染除去性	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
水滴滑り性	20°	30°	40°	40°	30°	30°	30°	30°	30°	30°	30°	30°	30°	30°	30°
	30°	20°	30°	30°	20°	20°	20°	20°	20°	20°	20°	20°	20°	20°	20°

【0050】以上のデータより、本発明のグラフト共重合体及び塗料が、被塗物の表面に優れた水滴滑り性、撥

水性、防汚性及び初期防汚性を同時に与えることができることは明らかである。

【0051】

【発明の効果】本発明のグラフト共重合体及び塗料は、造膜したときに基材表面に優れた水滴滑り性、撥水性、防汚性及び初期耐汚染性を付与することができ、耐候性、耐薬品性及び光沢等に優れるという特徴を有するところから、各種基材の表面処理に適用することができる。*

*具体的には、自動車、鉄道車両、その他の車両、又は建築物（住宅、若しくはビル）等の外板又は外壁、また、便器、洗面器、浴槽、キッチンシンク等の水周り器具、また、エアコン、冷蔵庫等の熱交換器、また道路標識、カーブミラー等に適用することができ、防汚性、視認性、難着氷雪性の改善に有効である。

フロントページの続き

F ターム(参考) 4J027 AA08 AC06 AF05 CB03 CD08
4J038 DL121 GA08 GA12 MA07
MA09 NA01 NA03 NA04 NA05
NA07 PB02 PB05 PB06 PB07
PC02 PC04

